

BOATMEN

NPO法人 石川県小型船安全協会会報「ボートメン」 21号 (2009年12月発行号) Vol. **21**



トピックス ……転落者救助、ざぶん賞2009表彰式

活動報告 ……マリンレジャー安全推進週間出動式、夏のイベント、海難訓練 など

行政から ……20年度海難事故状況、金沢・七尾海上保安部着任のあいさつ

ざぶん賞受賞作品◎ ポートマンズエッセイ・夏の思い出

小松で行方不明者捜索、金沢で転落者救助。

11月9日 小松安宅沖にて 小松マリクラブ救助チームが漁船転落者を捜索

小松マリクラブ救助チーム船10隻が同日転落し行方不明となった漁業者1名の捜索に協力しました。

午前2時頃、漁船M丸は前日仕掛けた刺し網漁のため安宅漁港を1名乗りで出港しましたが、午前4時頃、安宅港沖1.8海里付近で海中転落し行方不明となっていたものです。

捜索の結果、同日午後3時20分頃、残念ながら遺体で見られました。

11月24日 金沢港にて 今井さんが転落者救助

安全指導員である金沢支部の今井さんが、金沢港内から航行中、転落者1名を発見。ただちに、金沢海上保安部に事故の状況を速報するとともに、無事救助し、港内岸壁まで搬送、保安部職員に引き継ぎました。

転落者はプレジャーボートの船長で、港内を航行中、GPSに傾注し、前方の見張を怠り、ブイに衝突し、船体に亀裂が入り浸水。携帯電話で友人に救助を求めたが通じず、118番通報後まもなくボートが傾斜したため、救命胴衣を着用し着水したものです。

今井さんは事故現場付近を通りかかり傾斜した船を発見。一旦は行きすぎたものの、再度引き返して泳いでいる同船長を発見しました。

この功績により今井さんは、金沢海上保安部にて部長感謝状を授与されました。



ざぶん賞2009表彰式開催。

11月21日 表彰式、記念イベント、 11月22～24日 作品展を開催 金沢で

当会が共催しているざぶん賞は今年8回目を迎え、表彰式が、金沢市の玉川こども図書館にて、作品展が石川四高記念文化交流館にてそれぞれ開催されました。全国の小中学生から約4,500作品の応募がありました。全国表彰と石

川県地区表彰に選ばれた皆様が招かれ、約180名が参加しました。

県内からは今年も金沢市、輪島市のほか広く各地からの応募がありました。

式では、今回から新たに会長に就任された月尾嘉男氏(東京大学名誉教授)があいさつ、その後、馳 浩氏(第1回目実行委員会会長)、が地元を代表し歓迎のご挨拶を行い、各入選者に順に壇上で賞が授与されました。石川県内の入選者には、石川県知事賞、石川県教育委員会賞、金沢市長賞、うみまる賞がそれぞれ交付されました。当会顧問の金沢海上保安部長の伊藤氏、および七尾海上保安部長の三國氏も出席され、それぞれ賞を授与されました。

式の後、実行委員会理事で、このざぶん賞の発展にご尽力いただいている画家の西のぼる氏が、「さし絵について」と題し、講演をされました。



能登島カヌー周回事業に協力。

11月15日 月尾嘉男氏を招いてイベント開催

環境問題などに提言されている月尾嘉男氏(東京大学名誉教授)のカヌーで能登島周回事業に能登支部が協力。走行海域の先導、伴走を行いました。

2007年に起きた能登半島地震の復興を祈念して、同年4月にシーカヤックのスペシャリストでもある月尾氏が七尾湾(中島から穴水まで)をカヌーで走行されたことを機に交流が始まり、2008年度は同氏が主宰する各地の自然塾(石川県では日本海塾)の全国大会が七尾市で開催、そして今回の事業につながっています。

同氏は地域の小学生にも講演いただき、穏やかな内海の環境の素晴らしさを子供たちに伝え、これからも自然を守ってほしいとのメッセージを発信されました。

活動報告

総会開催。21年度の計画が承認。

2月21日 七尾で

総会は、会員、および来賓の皆様、計80名が出席され、能登支部の協力により、七尾市で開催されました。

議案審議では、本年度も引き続き安全指導、パトロールの活動強化、ライフジャケットの着用徹底を県内各地で行うこと、係留保管場所整備、マリンスポーツ振興事業、文化創造事業の実施が承認されました。

最後に七尾海上保安部長の三國氏より、ご挨拶を頂戴し、閉会しました。



マリンレジャー安全推進旬間出動式。

4月25日 七尾港で（能登支部）

4月29日 金沢港で（金沢支部）

能登支部では能登水難救済会、七尾海上保安部とともに、マリンレジャー安全推進旬間における出動式、および海難訓練を開催しました。

七尾市、穴水町のメンバー合同での開催となり、会員約50名が参加しました。今年は袖ヶ江保育園の園児および保護者約35名も参加。七尾海上保安部巡視船「はまゆき」の一日船長と海上保安官に任命され、湾内で安全指導を行いました。

訓練は第9管区本部海上保安本部のヘリコプター「らいちょう」も参加。曳航、人命救助など一連の訓練を行いました。

金沢支部でもマリンレジャー安全推進旬間における出動式を開催しました。



金沢で合同安全パトロール実施。

6月28日 金石大野・内灘

金沢支部では、合同安全パトロールを実施しました。金沢海上保安部の指導のもと、会員36名、3隻、また海上保安部から6名が参加、海上、陸上双方から各班に分かれ、行動しました。特にライフジャケットの着用徹底、ゴミの持ち帰

りなどを中心に指導しました。



各地で合同安全訓練、講習会を実施。

6月14日 小松安宅沖

加南支部（小松マリクラブ、手取会）と小松美川水難救済所の合同海難訓練を実施しました。金沢海上保安部、小松消防署ら関係団体の協力の下、会員約50名、約20隻が参加、陸上に設置した本部艇の指示のもと、海上で落水者の救助や曳航など各種訓練を順に行いました。

後半波が高くなり、本部判断で中止し、小型艇から順次帰港する処置が迅速にとられ、無事終了しました。



6月20日 羽咋滝港

羽咋支部、能登マリクラブは、海上保安部員（7名）の指導のもと、滝港にて訓練を行いました。会員約34名が参加しました。

8月1日 輪島沖、9月26日 珠洲沖

輪島、珠洲地区でもそれぞれ訓練を実施しました。輪島では約40名、8隻が参加。珠洲では県主催の珠洲市防災総合訓練に約20名、6隻が参加しました。輪島訓練は荒天中止となりましたが安全講習会を行いました。



海上指導員講習会を開催。

8月9日 能登支部 七尾

能登支部は海上安全指導員の講習会を開催しました。今回は七尾海上保安部の協力の下、港内法、および警笛(信号音)、海洋気象学、航路機械の再確認などを行いました。本年度、七尾湾にて海上保安部艇はまゆきが遊漁船に対し発した停船命令を発したことに、船長がその意味を理解していなかったこともあり、基礎知識の再勉強の機会を設けました。

オイルフェンス講習会を開催。

7月26日 金沢支部

昨年開港した大野川河口係留施設において、オイルフェンス講習会が初めて開催されました。ウォーターフロントパークに所属する会員ら約15名が参加しました。

夏のイベントを開催。

7月19日 金沢沖 体験クルージング

金沢港ではマリンフィッシングクラブが体験航海を開催、多くのご家族や子供たちがボートを体験しました。また海の日のえちご体験航海のパレードは荒天のため中止されました。

7月19日 ボート天国・マリンスポーツチャレンジデー
七尾、穴水でもフィッシング大会を開催。

恒例となった七尾港の体験航海が開催されました。今回はボートフィッシング大会も開催。約350名の多くのご家族や子供たちがボートを体験しました。

七尾マリン協会、雌島クラブ、七尾セーリング協会が協力しました。

また穴水でも中居マリン協会がフィッシング大会を開催、約80名の参加がありました。

7月26日 小松、美川

親子ふれあいボートフィッシング大会

今年も小松、美川で、親子を対象としたボートフィッシング大会が開催されました。

約50組の親子が参加し、きず釣りなど体験しました。

手取会では後日体験航海も行い、多くのご家族や子供たちがボートを体験しました。

クリーンビーチ石川に参加。

5月31日 金沢支部

6月7日、9月27日 加南支部

今年もクリーンビーチ石川に協力し、金沢は大野、金石、小松安宅、手取川を清掃しました。

トライアスロン珠洲大会に今年も協力。

8月23日 珠洲 鉢ヶ崎

トライアスロン珠洲大会に、今年も長浜マリン協会の皆様が、スイムの海上安全において協力いたしました。メンバー15人(隻)がボートを提供し、各配置にて監視しました。安全指導員として、下記の皆さんが新たに指定されました。

お知らせ

2009年度の会員の功労表彰受賞

安全指導に関わる活動の功績を称え、本年度も海上保安庁長官表彰など、当会安全指導員に授与されました。表彰式や伝達式は、海の日に各所で行われました。

永年にわたる指導、安全パトロール活動の実績や、講習会や訓練などへの関わりにより、会員に広く安全運航や海難防止思想の普及・高揚に尽力したことの功績が評価されています。

●海上保安庁長官賞

牛上芳郎 (中居マリン協会)

●第九管区海上保安本部長表彰

今井重松 (個人会員)、多田征志 (七尾マリン協会)、
中尾雅夫 (輪島マリン協会)、村田 章 (雌島クラブ)

2009年度会員状況

●正会員

19団体、個人6名 (会員名は省略)

●賛助会員

自治体

石川県、珠洲市、輪島市、七尾市、羽咋市、金沢市、
白山市、小松市、穴水町、内灘町

企業、団体

石川県漁船保険組合、石川県セーリング連盟、
石川船用品、エイトノット、木下造船所、さざなみマリン、
清水マリンサービス、太陽プロパン商会、TAKANO、
つり具センターあさの、東洋建設、ドラッグヨシダ、
中尾食品、中越自動車商会、中野朝日自動車工業、
ナナオ、西田鉄工、日装設営センター、橋本商店、
マリンパーク内灘、ヤマハ発動機、ヤンマー船用システム
(50音順)



ざぶん賞2009

海難訓練、安全週刊出動式
(各地)



総会



編集後記 先日クイズ番組で、「東京アクアラインはなぜ全線が橋ではなく途中からトンネルになっているのでしょうか」という問題がありました。答えは船が通るからという簡単なものでした。ところがこの問題の一般人の正解率は、なんと一桁のパーセントだということでした。海に関する知識、経験が現代の日本人にとってどんどん縁遠くなっているのでしょうか。高速道路の無料化だの整備新幹線の着工だの「陸」に関する話題や議論があふれていますが、海に目を向けると領土問題、基地問題、拉致問題… 平和すぎたこの国ではしっかりと向き合うことを避けたいのが「海」のかもしれませんが。そういえば外国のことを「海外」というのは島国なのですね。日本の羅針盤はどこを差しているのでしょうか。